

第8回「あび北フォーラム」会議議事録

開催日： 令和元年9月15日（日） 13時15分～16時30分

開催場所：北近隣センター 多目的ホール及び会議室2/3

参加者： 自治会 総勢35人
我孫子市役所 2人
地域会議事務局 11人（計 48人）

1. 開会挨拶（事務局）

（はじめに）

「あび北フォーラム」も今回で8回目となった。今回実際の参加者は26自治会だが、アンケートへの回答が35自治会だったことを考えると地域の95%の方々に興味を持って頂いたことになるので関心度が高くなってきていると確信している。

その中で今回、自治会・町内会から35名の参加をみた。

（「あび北フォーラム」発足経緯について）

我孫子市の政策の一つである「コミュニティ活性化」の取り組みとして、当時の市民生活部長から（我孫子北まちづくり協議会に）北地区での課題を地区内の関係団体間で話し合える場としてまち協中心で北地区の円卓会議である「地域会議」を立ち上げて欲しいとの要請があった。

（まち協は）これをうけ、従来の自治会との懇談会の延長線で各関連団体（地区社会福祉協議会、高齢者なんでも相談室、民生委員、地区連合会の会長さん）の方々に集まって頂き事務局メンバーを構成して地域会議を2017年5月にスタートさせた。

（今回の会議への期待について）

前回同様、3つのエリアに分かれてのグループ討論を行うが、其々のエリアが持つ課題を十分議論し何か有意義な意見・事例をキャッチして頂き自治会に持ち帰り実施できるようになるとフォーラムの目的が達成されるので意見交換を宜しく願いたい。

2. 会長からのメッセージ（代読）

* 「あび北フォーラム」も8回となり、防災を中心に進めてきた。今回は防災を基盤としながら要支援者へのケアをどうしたら良いかについて意見交換して貰ったらどうかと思う。

* 台風15号の被害は当地域には大きな影響は無かったが、「明日は我が身」と捉え、防災に関する議論を加速して貰いたい。

3. 市民活動支援課課長補佐挨拶

* 台風15号では千葉県以外の地域は被害が甚大であり、本日の会義では緊急時での対応をどうしたら良いかをしっかり考えて貰いたい。

* 昨日今日と「けやきプラザ」で開催されている「市民のちから祭り」で、あび北フォーラムを含む5つの地域会議の活動を紹介している。地域会議の更なる活躍を期待している。

4. 第1部・・・要支援者支援に関する情報共有の実施

- ① 事務局より、今回の会議の出席依頼時に実施した「要支援者支援に関する」アンケート結果が報告された。 ⇒報告内容は、添付別紙参照。
- ② 事務局より、「要支援者への支援は何時するのか？」についてパワーポイントにて解説された。 ⇒解説内容は、添付別紙参照。

5. 第2部・・・A, B, Cの3グループに分かれ討論実施

【Aグループ】 場所：会議室3

【Bグループ】 場所：多目的ホール

【Cグループ】 場所：会議室2

6. グループ討論結果の報告

【Aグループ】

災害への備えについての情報交換を行った。

※本日の討論のまとめは以下。

- ・避難所運営委員会を地域の小学校と協議をしながら作っていかうということとなった。
- ・防災については近隣同士のコミュニケーションが大事という事が再確認された。
- ・防災訓練の実施状況は各自治会其々の事情に合わせて実施されているとの報告だった。

※本日の討論で出た主な意見および情報は以下。

<要支援者への対応について>

- 要支援者の中には、大勢の人が集まる場所でパニックになる方や近所との交流がない方など地域の支援を受けることが難しい方もおり、支援内容は個々により全く異なる。また、要支援者の避難所はあるが運営に関しては未整備ではないのか。
- 高齢者が夫婦と単身者とでは温度差があること、また「大丈夫です」と言って支援の手を挙げない人や不安が大きい高齢者もおり個々に対応が必要。
- うちの自治会は、災害時の要支援者は（現時点）194人いるが、そのうちの160人は460人のボランティアで対応することにしている。被支援者1に対して支援者が3になるようにボランティアを調整している。支援者の対応は、現在は呼び鈴を押すだけに留まっている。
- 数年前に要支援者の同意を得て名簿を作ったが、時間の経過とともに実態と乖離してしまった。要支援者の名簿を最新状況に維持するために班会議を開いて更新することにしたのだが、個人情報更新の把握には様々な意見があり現実には班会議での情報更新は上手くいっていない。引きこもりの高齢者の状況把握などを他の自治会はどのようにしているのか知りたい。
- 外国の方が増えてきており、また、夫は仕事、妻は家という状況ではなくなってきた。このような状況で要支援者の更新情報をどのように把握しているのか知りたい。

○要支援者名簿は自治会の中で「向こう三軒両隣」には知らせても良いかをアンケートで確認して、自治会防災会が自主的に広めていく方向で進めている。

【B グループ】

前回の議事録で前回の討論内容の確認を行い、本日の討論に入った。

※前回の討論内容の確認結果は以下。

- ・前回の討議で今年度中に立ち上げることにした「避難所運営委員会」の設立までの具体的な行動は前回討論での計画より2ヶ月程度の遅れが生じているがそのまま進めていくことを確認した。

※本日の討論について

今回のグループ討論は、今後の各自治会での対応の参考に資することを目的に、「自助力向上への対応」、特に「災害弱者への対応」についての各自治会での取り組み状況の紹介、および自治会で対応する上での問題点などについての情報交換を実施した。

※本日の討論のまとめは以下。

①「避難行動要支援者」名簿の活用について

本日の討論では、災害時に近所の命を守るのは「向こう三軒両隣」であり、平時の繋がりが大切だということは共有できたが、そのことについて市の名簿はどのように役立つのか、また役立つにはどのように運用したら良いのかは課題のまま残った。

また、市の名簿を受領していない理由には、「平時の運用方法がわからない」だけでなく、「名簿管理が煩わしい」「名簿非掲載を含む要支援者の最新維持方法や要支援者への支援体制と支援方法が整備できていない」こともあることを確認した。

②大雨・暴風への備えについて

事前のアンケートにより、これまでの防災訓練は多くの自治会で地震への備えが主であり、近年増加しつつある大雨・暴風を想定しての防災訓練は殆どできていない状況であることが確認された。

今年は大雨による災害が連続しており、台風15号では暴風でこれまでにないような災害が千葉県に発生した。これからは、大雨・暴風に対する減災対策、避難訓練（避難先・移動ルートの確認含む）も地震に対する対応に加えて行うことが必要との認識を共有した。

さしあたり本日の討論の中で出た、大雨・暴風時に市民が避難行動を開始するかどうかを判断するための情報は何か？そしてその情報の市民への伝達方法は？自主避難所開設の要望の出し方、自主避難所・指定避難場所の開設情報の広報方法を事務局で確認して次回フォーラム時に報告することにした。

【C グループ】

※本日の討論について。

今日の事務局のプレゼンテーションを受けて、各自治会の要援護者への対応状況などについて、意見交換をした。

Cグループは、マンションと戸建ての自治会があり、それぞれ防災への取り組みについては、今現在、防災組織を立ち上げようと尽力している自治会、マンションとして防火対策のみから、さらに防災全般に対応する組織に変更したいという管理組合、そして既に防災組織として継続した活動をしている自治会など、防災への対応レベルは様々であった。

※本日の討論で出た主な意見および情報は以下。

<要支援者への対応について>

- 他自治会の取り組み情報を聞いて、自前での要援護者リストの登録を開始した。
- 防災組織を見直しし、再構築しているマンションでは助かる命があるならきちんと安否確認の開始を決めた。
- 要援護者登録などのまだまだだが、一步一步防災組織を立ち上げるために、自治会の防災意識の向上やコミュニケーションのために手作りの情報誌を回覧している。
- 市の要支援者名簿を受領して、防災会委員が対象者を訪問して雑談しながら状況把握している。できることから始めることが大事と考え、100点ではなく60点で良いから実行することを心掛けている。
- 市の要支援者名簿は、金庫に保管しているが、有効に活用するまで行っていない。保管だけで良いのかと自問自答の状態。
- 市の要支援者リストと自前の登録者の対応は、災害時の安否確認の重点対象としているが、これからは平時の災害対策（自助力）の向上のための支援を行う計画。

※グループ意見交換について

- 前回6月1日の第7回あび北フォーラムに出て、このような情報交流の場は必要と思った。「要支援者リスト」については、市役所からの「要支援者リスト」を受領している自治会、当該自治会で自主的に対応している自治会、今後対応案、活用案を作っていきたいとしている自治会があり、その対応は自治会の状況により区々あることがわかった。このあび北フォーラムはこのような各自治会の情報がわかるので有益と評価された。

7. 閉会の挨拶（事務局）

今回の会議の中で自治会活動に有意義な情報は今後の自治会活動に活かして頂けたらと思います。次回も引き続き防災を基盤にしながらこのフォーラムを継続したいと思います。

次回の開催は来年2月に予定しており、別途ご案内します。

本日のフォーラムはこれにて閉会します。

以上